

この治療に 頼れるドクター

たくさんの病院があるなかで、ある専門分野に特化した名古屋市内の頼れる病院3件を紹介します。

一婦人科・泌尿器科一

自然妊娠を手本とする不妊治療に 20年携わる医師と先進医療とは



- 1.お話しノートは、患者同士の交流や情報交換のために置かれています
- 2.パソコンを使って、自由に情報をチェックできるトークラウンジ
- 3.片岡鶴太郎氏による書、「夢」。体外受精の受付に飾られています
- 4.左から越知院長、桑波田副院長、与那覇医師。『患者が持つ卵の力。を信じて、できるだけ身体に負担をかけない治療を、日々提供し続けています
- 5.自動精算機を導入し、会計時の待ち時間を短縮。細やかな心遣いが感じられます
- 6.明るくサポートを行う看護師。医師に聞きそびれたことや不明な点などを質問できる時間も設けています



卵のストレスを極力減らし 低AMHの場合でも妊娠へ

その体外受精の治療方針を決定する際に必要なのが、AMH検査（抗ミューラー管ホルモン検査）です。「AMHは卵巣にどのくらい卵があるのかの目安です。ただし、『AMHが低い』=卵巣状態が悪い」ということではありません。AMHが低くても妊娠する人はたくさんいます。当クリニックでは、体外受精での排卵誘発法を決定するための指標のひとつとしてAMHを活用しています」

排卵誘発には、いくつか方法がありますが同クリニックで主流になりつつあるのが、「フェマーラ」という薬による排卵誘発。これは系列病院である新橋夢クリニックの寺元章吉院長が開発した手法です。「排卵誘発剤として一般的に使用される薬のひとつにクロミフェンがありますが、これは大きな卵胞か

けるのが基本です」と越知院長。その言葉通り、同クリニックではできるだけ身体に負担をかけない、体外受精を方針としています。卵のストレスを極力減らし低AMHの場合でも妊娠へ

子どもがほしいと願いながらも、恵まれない夫婦は7組に1組ともいわれる不妊。昔から不妊症の治療はありますが、昨今では晩婚化による高齢不妊や、性感染症による卵管性不妊症が増えてきています。そのような不妊症の悩みに応えているのが『おち夢クリニック名古屋』。東海地方で唯一の「永遠幸グリープ」関連クリニックで、体外受精を中心とした不妊治療を専門的に行っています。

治療にあたるのは、20年以上不妊治療に携わってきた越知正憲院長や女性医師の桑波田暁子副院長をはじめとする、豊富な経験を持つた医師や看護師、培養士。一人ひとり異なる不妊の原因を的確に見極め、タイミング療法と呼ばれる一般不妊治療や体外受精、顕微授精などの高度生殖医療を行っています。

「私たちの不妊治療のお手本は、自然妊娠。不必要的排卵誘発剤の投与を、できるだけ避





ドクター紹介

院長 越知 正憲

藤田保健衛生大学卒業。愛知県内の病院で経験を積んだ後、先進設備と最先端技術を持つ同クリニックを開院しました。名古屋地区で最大の規模を誇る不妊治療専門クリニックとして、身体にやさしい治療を続ける一方で、藤田保健衛生大学客員講師も務めています。

副院長 桑波田 晓子

久留米大学医学部卒業、鹿児島大学大学院修了。産婦人科全般の研究および臨床実験を積む中、同クリニックの不妊治療現場と出会い、その技術をより多くの方へ届けたいという想いから同クリニックへ勤務。日本産科婦人科学会専門医、日本抗加齢医学会専門医でもあります。

医師 与那霸 齋

北里大学医学部卒業、三重大学大学院医学系研究科・医学部卒業。不妊治療から周産期、腫瘍など幅広い臨床経験を持ちます。2014年4月より同クリニック勤務。身体に負担の少ない治療を目指し診察を行っています。日本産科婦人科学会専門医。麻酔科標榜医でもあります。

中区 | 久屋大通

おちゅめくりにっこなごや
おち夢クリニック名古屋
☎052・968・2203

診療内容 不妊治療・生殖医療 泌尿器科

名古屋市中区丸の内3-19-12 久屋パークサイドビル8F
图9:30~12:30、16:00~18:30(金土日曜・祝は9:30~12:30)
图無休
自由診療は体外受精356,400円~(完全自然周期は成功報酬制あり)
なし
地下鉄名城線・桜通線「久屋大通」駅2A出口から徒歩1分
必要
www.art-ochi.com

19 桜通大通 桜通
アネックス 鎌3 デイリー オアシス21

私はすべての女性は妊娠する権利があると思っています。ボタンのかけ違いで妊娠できなくなっているだけなので、それ解決するお手伝いをしたいです。まずはどこに問題があるのか調べて、最適な治療法を見つけていきましょう。

アロマが香る待合室や自由に情報を収集できるストーカラウンジ、待ち時間が少なくなる設置した自動精算機など、患者の負担を少なくするための配慮は細部まで行き渡っています。命に対して誠実であること、卵子だけでなく患者の気持ちを思いやることなど、越知院長が考える不妊治療の方針をしっかりと踏襲しているスタッフが揃う、何とも心強いクリニックです。

比べ高くなっているそうです。



らしか成熟卵をとることができないので。一方、フェマーラは小さな卵胞からも採卵が可能です。そのため、より多くの成熟卵を回収でき、妊娠率のアップにつながっています。ただし、小さな卵胞から採卵するのは熟練した技術が必要で、医師も培養士も、常に自己トレーニングが欠かせません。

「より多くの方に妊娠していただくためには、最高の環境、最高の設備を揃え、合わせて、医師や培養士の技術に対する修練が必要だと考えています。

最新鋭の培養器を世界に先駆けて8台も導入

体外受精では医師や培養士の技術はもちろん、いかに卵にストレスを与えることなく育てるかも重要。本来、子宮の中で育つ受精卵にとって体外の環境は非常に過酷だからです。「子宮内は、光も当たらず温度変化ありません。そのため体外受精では、受精卵は温度や光などを一定にした培養器の中で育てますが、成長過程の観察のため1日に1回程度は培養器から出さなければなりません。そのため時間も卵にとってはストレスになります。『わざかな時間も卵にとってはストレスになってしまうのです』と副院長の桑波田医師。そこで同クリニックでは「タイムラブスインキュベータ」という最新鋭の培養器を、世界でも珍しく8台導入しました。これは受精卵を取り出さずに観察できる機器で、自動で30分ごとに内蔵されたカメラで写真を撮つて観察でき、卵へのストレスを極限まで減らすことができます。実際、タイムラブスで培養した場合の胚盤胞到達率は、通常の培養器